

《世界デジタルサミット2021》

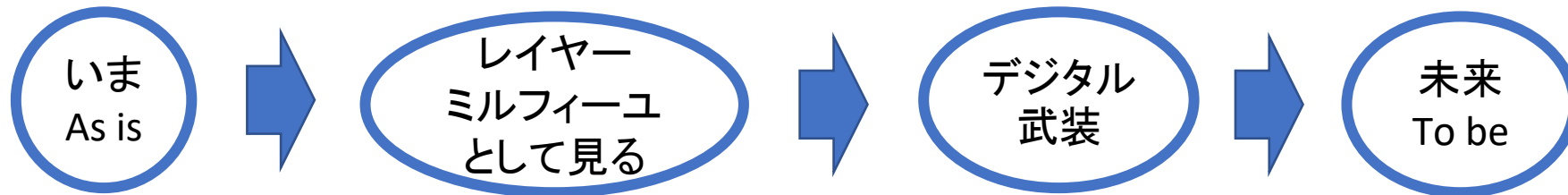
企業の進化促すデジタル改革(DX)

2021年6月7日

株式会社経営共創基盤 (IGPI)
シニア・エグゼクティブ・フェロー
西山圭太

ポイント1 : DXとは今のビジネスをデジタル化することではない

ポイント2: DXは次のステップで考えるべき



ポイント3 : 「レイヤー、ミルフィーユとして見る」とは

ダイセルの場合: 網干工場のプロセスを、設備配管内の予兆の把握⇒解析⇒介入という基本動作の組み合わせで構造化した。

みちのりの場合: 傘下のバス会社を横串(整備、予約システム、購買、安全対策...)でも経営することにした。

エルブジの場合: 「料理でもてなす」という行為を、素材とテクニックの組み合わせ、そして当日のメニュー構成・個別のひと皿の創案に分解した。

すると何ができるか...

DXができる

ダイセル: ベンダー任せでなくDXを実現し、他社コンサル、サプライチェーンDXにまで至る。

みちのり: ダイナミックルーティングなど新しいサービスをレイヤーで取り込みやすい。

IXになり、タテ割りが崩れる

ダイセル: プロセス産業であれば手法はみな同じと気づく。

みちのり: MaaSに近づく。

エルブジ: 料理の脱構築。

⇒つまりは、自分のビジネスを「プラットフォーム」にすることができる

ポイント4：レイヤーという見方に不可欠な発想が「抽象化」である

ダイセル：化学産業ってそもそも何か ⇨ プロセス産業って？
みちのり：バス事業ってそもそも何か ⇨ モビリティサービスって？
エルブジ：レストランってそもそも何か ⇨ 料理って？



陥りが
ちな罠

すぐ具体的な方向に行って目に見える成果を出そうとする
⇨今やっている仕事を細かく分解しよう、それを日々改善しよう

そもそも**デジタル化とは抽象化の歴史**である

チューリング：数学って、計算ってそもそも何か ⇨ 知能って、生物って？

そうすると「なんでも一気に解決できる打ち手」が発見されて、それが積み重なった
レイヤー構造(スイッチング、半導体、インターネット、検索エンジン、画像認識、GPT3...)で
世界が出来上がるようになる。

それが**理解できるかできないかが、今後の経営リーダーの勝負どころ。**

ポイント5：クラウドを利用する意味は何か

- クラウドサービス自体がレイヤー構造になっている。
 - 従って、「クラウドを使い倒す」ということは、実は自分のビジネスをレイヤーとして見ることになり、いわば「**思考の矯正**」になる。
- ⇒「先から戻る」みたいな感じ

ポイント6：第一歩を飛ばすとどうなるか

- **レガシー**になる：デジタル化したのに残業が増える。
- **UX**が実現できない：デジタル技術は導入してもリアルをうまく組み合わせられない。

ポイント7：行政のデジタル化でも同じこと

- まずは「行政って何か」と考える。
- それをレイヤーで組み立ててみる。
- インド(インディアスタック)はそれを実現しつつある。